

# Rise

## ライズ

労働者・兵士ともに起ちあがろう！

—自衛官との団結は職場の団結から始まる—

発行：労働者兵士行動委員会

URL：http://www.rise-rou-hei.info/wp/ Email:rou\_hei\_rise@yahoo.co.jp Tel.090-8961-0141

〒105-0004 東京都港区新橋2-8-16 石田ビル4階 年会費：2000円 会員外年間定期購読料：1200円



侵略を内乱へ！ 革命への挑戦を！

ウクライナ戦争は、ロシアの東部、南部への戦力の集中投入と戦闘激化の4月を転機に後戻りのできない戦争の新たな拡大過程に突入している。世界戦争・核戦争への転化という危機の現実が加速していることを真つ向から見据え、戦慄し、ウクライナ戦争―世界戦争を労働者階級・兵士の国際連帯と実力決起で何としても阻止しよう！

ウクライナ戦争は米欧帝国主義と中の領土・勢力圏の拡大戦争だ。戦後

世界体制と新自由主義の崩壊を

反帝国主義・反

スターリン主義

プロレタリア世

界革命に転化する

一大挑戦へ打って出よう！ 職場から世界戦争阻止・日帝

打倒の全労働者階級の総決起を！ 職

場から、自衛隊内から、米日帝国主義

の中国侵略戦争を内乱に転化する革命

戦争を組織しよう！

上限なき米帝のウクライナ軍事支援

バイデンは28日、ウクライナへの新たな軍事支援予算として2022会計年度（21年10月～22年9月）に計330億ドル（約4兆3000億円）の追加を議会に要請した。2月24日の侵攻開始からの2カ月で米帝がウクライ

巻頭言

## 世界（核）戦争を阻止しよう！

ナ支援に充てた140億ドル（約1兆8000億円）の倍以上だ。主な内訳は、軍事支援に204億ドル、財政援助に85億ドル、人道支援に30億ドル。会計年度末の5カ月間で支出する。今回の軍事支援204億ドルだけでも2021年のロシアの軍事費の3分の1に相当する。ウクライナ軍事支援は米軍需産業に流れ込む。

米帝の狙いはロシアの徹底的弱体化。そのために大型兵器や榴弾砲、米空軍が開発したウクライナ用自爆ドローン、

防空システムなど兵器供与の流れを加速させている。供与する榴弾砲は米軍保有の5分の1。米軍戦力も失われることになる。

米・ロ（中）戦争として激化

米帝の狙いはロシア軍の戦力消耗。プーチン政権を支える新興財閥オリガルヒの米国内凍結資産を没収する法改正を進め、ウクライナ軍事支援に充てるという盗人方針も出した。没落米帝のなりふりかまわぬ姿だ。ウクライナ戦争は米地上軍の派兵なき米ロ（中）の近代兵器の全面戦争ともいふべき新

たな段階に突入している。

これに対しロシア軍はウクライナ東部、南部の地上制圧に戦力を投入。南部マリウポリ、メリトポリ、ヘルソン制圧からさらにオデッサ制圧を目指し、ウクライナと黒海を切断する当面の作戦目標を設定し突進している。メリトポリ北方のザポロジエ（原発）攻撃準備も報じられている。

ロシアの独立系メディア「メドゥーザ」は27日、5月14、15日に南部ヘルソンがウクライナからの独立を問う住民投票を行なうと報じた。独立系のレバダ・センターの調査では、3月のプーチン支持率は83%。2月の71%

滝山猛士

から12ポイント上昇。ゼレンスキーの支持率も80%を超えている。戦争とは相手に意思を強要し、抵抗が不可能なところまで追い込み、打倒する殲滅戦。ロシアが追い込まれれば作戦のある段階で核攻撃は発動される。犠牲はすべて労働者・兵士と住民に集中する。阻止しよう！

岸田政権を倒せ！

岸田は6月下旬、NATO首脳会議に参加する。米ロ（中）戦争―世界核戦争への全面参戦だ。改憲・侵略戦争阻止！岸田を打倒しよう！

# ウクライナ戦争ー中国侵略戦争阻止へ！ 5・15 沖縄闘争、クアッド粉砕を大爆発させよう！

全学連 沖田

学生・労働者の皆さん。プーチンが2月24日、ウクライナへ侵攻してから約2か月がたちました。この戦争は収束する兆しを見せるどころか、各国を巻き込み世界戦争・核戦争にまで発展しようとしています。特に、米バイデンは中国を「最大の敵」とみなして、中国との戦争策動を一層加速させています。ウクライナ戦争、そして中国侵略戦争を止める力は、労働者民衆の国際反戦闘争にあり、日本の闘いが決定的になっています。5・15沖縄闘争、バイデンの来日、クアッド会議粉砕の闘いを爆発させ、日本からも国際反戦闘争をまき起こそう！

【1】戦争を拡大させているのは米・NATOだ！ 労働者民衆の反戦闘争を！

全世界で、「ロシアは撤兵しろ！

NATOは拡大をやめろ！」と労働者民衆による国際反戦闘争が闘われています。イタリアでは、ドラギ政府がウクライナへ「人道支援物資」として武器・弾薬を輸送しようとしたことに対して、ガリレオ・ガリレイ空港の労働者は、積み込みを断固拒否しました。イギリスでは公共サービス労働組合130万人が所属）は、「この戦争はNATOの中東欧への拡大によって促進されたロシアとNATOの間の代理戦争でもある」として、「労働者の団結と国際主義の立場」から労働者に戦争反対の闘いに立つことを訴えています。ベラルーシでも鉄道労組がロシアへの軍事物資の輸送を阻止する行動に出ています。

それを妨害するがごとく、ウクライナへの経済援助・武器供与を決定してきました。その総額は、昨年ウクライナ国防予算の6割超となる総額約3200億円であり、対戦車ミサイル・ジャベリンや装甲車、自爆型ドローンなどの大量破壊兵器まで供与しています。米・バイデンは戦争を止めるどころか、むしろ、戦争を拡大させているのです。日本もドローンや防弾チョッキという軍事物資を提供し、事実上参戦しています。

【2】中国侵略戦争策動を強める日米政府

今こそ、労働者民衆の側から巨大な国際反戦闘争を作り出し、戦争を止め、戦争を進める政府を打倒する時です。何よりも日本の労働者の闘いは、ウクライナ戦争ー中国侵略戦争を止める決定的な位



3/19 イタリア・ピサ 空港へのデモ

置を持っています。米バイデンは5月下旬に来日し、日米豪印4カ国（クアッド）首脳会議が対中国の戦争会談として開催しようとしています。その目的をアーミテージ元米国務副長官は「岸田ーバイデン首脳会談と次回2プラス2で、同盟の新たな目標を設定すべきだ。それは、連合作戦司令部と連合能力開発の枠組み構築である」「台湾有事に責任を負う作戦指揮官を日米がそれぞれ任命し、同じ場所に配属すべき



2/27 ロシア・サンクトペテルブルグ  
ウクライナ戦争反対デモ

だ」(3月28日付け読売新聞)と語っています。まさに中国侵略戦争へ向けて米軍と自衛隊が限りなく一体化していく戦争準備です。去年の4月、日米は日米首脳会談において「台湾有事」を宣言して中国侵略戦争策動へ決定的に舵を切り、それを具体化する一年でした。昨年9月15日〜11月下旬、陸上自衛隊の全部隊である約10万人を動員した過去最大級の実動演習を行い、南西諸島(奄美大島、本島・勝連、宮古島、石垣島)に自衛隊のミサイル部隊配備し、戦争のための軍事拠点化を進めてき

ました。

さらに、沖縄では日米共同連合演習(レボリユート・ドラゴン21)がおこなわれ、海兵隊の対中国軍事作戦「EABO」に自衛隊が初の連携訓練を行っています。「EABO」とは対中国の実践訓練を想定した海兵隊の新作戦であり、少数の部隊に分かれた海兵隊の各部隊が島から島へ移動し中国軍を攻撃し、制海権を確保した海域に海軍の空母打撃群を投入して中国本土へ本格的侵攻するという作戦です。

そして、岸田政権は、ウクライナ戦争を好機として、「相手国の指揮統制機能を含む敵基地攻撃能力」(4月11日の自民党安全保障調査会)保有を公言、さらに防衛費の国内総生産(GDP)2%以上への増額へと戦争への衝動をむき出しにしています。

このウクライナ戦争下、中国侵略戦争絶対反対を貫き、日本から戦争を止める闘いが私たち日本の学生・労働者の肩にかかっています。

### 【3】5・15 沖縄闘争、クアツド会議粉砕へ

全学連は、去年一年、コロナを理由にした労働者弾圧、国家称揚攻撃を戦争国家化の問題として捉え、7・23オリンピック開会式実力粉砕闘争を闘い抜きました。また中国侵略戦争情勢と対決し、21年11月、22年1月、3月と機動隊と対峙しての辺野古基地建設阻止のゲート前座り込み、勝連分屯地申し入れ行動など、沖縄現地闘争を連続的に闘いぬいてきました。特に、3月24日のウクライナ戦争情勢下での沖縄現地闘争を通して「沖縄がウクライナのように戦場になる」「中国への圧力をかけ戦争準備を進めているのは米国であり日本だ」という沖縄労働者民衆の止めどもない怒りを肌でつかみとってきました。

50年前の1972年5月15日、沖縄は施政権の返還によって日本に「復帰」しました。しかし、それは基地撤去を求めて「復帰」闘争を闘った沖縄の労働者民衆の願いを根本的に踏みにじり、米軍基地の固定化と自由使用を強制するものでした。その日以来、「5・15」は屈辱の日、闘いの日として受け継がれてきています。今年の5・15沖縄闘争は、岸田が「安全保障上の重要な沖縄」を全面に掲げて、



3/22 陸上自衛隊勝連分屯地への申し入れ

「基地の島」の永久化と沖縄の戦場化を狙う記念式典です。ウクライナ戦争が中国侵略戦争として拡大しようとするなか、日本から中国侵略戦争反対、改憲・参戦を狙う岸田政権打倒する大闘争にする決意です。

そして、全学連は、沖縄の闘いを引き継ぎ、中国への侵略戦争会談であるクアツド粉砕、バイデン来日弾劾を日本労働者、学生の大反戦運動として闘います。全学連は全世界の労働者・学生と連帯し、日本から中国侵略を狙う岸田政権打倒へ攻め上ります。ともに闘いましょう。

# 3・11反原発闘争大成功！ 来春汚染水海洋放出阻止へ！ 福島はさらに闘います

3・11反原発福島行動実行委員会 長沢宏

## 戦争情勢下での3・11

あの原発事故から11年、今年の3・11は、ウクライナへのロシアの軍事侵攻によって殺りくと破壊が日々進行する中で、まさに「戦争情勢下での3・11」となりました。

第2次世界大戦は、1939年9月のナチスドイツのポーランド侵略によって始まったと言われますが、それ以前より日帝による中国への侵略戦争やヨーロッパなどでの領土略奪など、戦争はずでに行われていました。今のウクライナをめぐる戦争状況を見ると、ロシアの軍事侵攻、ウクライナの抵抗、米帝やEU、日帝による経済制裁、ウクライナへの兵器、弾薬の提供、多額の資金援助（さらにマスコミ報道では米帝はすでに数千人の軍事顧問を送ったり、ウクライナ国内外でウクライナ兵に軍事訓練を行っている）など自国軍隊を戦場に投入していませんし、でも、実質上は「参戦」に近い状況です。これが今後の戦争の拡大によっては、世界戦争への道につき進むことを否定できないし、しかもそれは核戦争の可能性があるという危機感をひしひしと感じま



3/11 福島市信夫山公園での集会

ロシア人民の反戦闘争の爆発、イタリア、イギリスなど労働者を先頭にした戦争協力拒否の闘いなど全世界で大規模な反戦闘争が闘われています。

日本でも3月、48時間ストに決起した動労千葉をはじめ反戦闘争が全国各地で闘われました。ここにこそ第3次世界大戦を阻止する力、展望があります。そうした中で、11年目の3・11が来しました。

## 3・11反原発福島集会 大成功！

ウクライナでの戦争では、核戦争の危機と共にチェルノブイリなどの原発が攻撃され、原発の危険性が改めて世界の人々の前に明らかになりました。

その上で、今年の「3・11」をめぐる福島の現状を見てみましょう！

政府は「復興」「オリンピック」を掲げ、特に「オリンピック」は2年間にわたり福島の反原発闘争を圧殺するためにやってきました。ほがこれも完全に失敗しました。ほとんど見通せない「廃炉」の現状、広大な高線量の汚染地域の存在、子供たちの甲状腺がんなど深刻な

す。かの第2次世界大戦もこのようにして始まっていったのかと思わざるをえません。

米帝は、ロシアをこのウクライナでの戦争で徹底的に弱体化させ、中国に対する侵略戦争体制を日帝と共に強化していき、日帝は同じく沖縄・南西諸島のミサイル基地化をはじめ軍拡・戦争国家化を一挙におし進めるためいっそうの戦争・改憲攻撃をエスカレートしています。

これに対し、激しい弾圧下でも

健康被害の状況、今も6万7千人以上の避難者の存在、健康・福祉・介護などの支援の打ち切り等々、そこに原発汚染水の海洋放出攻撃です。およそ怒りなしには語れないのが福島現状です。昨年4月13日の菅政権の汚染水海洋放出についての一方的な決定の強行に対し、本格操業にむけ努力してきた漁業者はじめ県民は怒りを爆発、さらに抗議の声は国内はもとより海外にも広がっています。

政府・東電は、「IAEA」などのペテン的調査を使って「安全性」をアピール、県知事などの「事前了解」を受け、「早ければこの6月中にも工事を始めたい」などと言っています。こんな事は絶対に許しません。

このような状況の中で、3・11が近づいてきたのですが、残念ながら10年になる3・11実行委員会のこの運動の原点や地平を忘れ、それをないがしろにするような主張・動



3/11 福島市中心部でのデモ

きが出てきました。これまで3・11実行委員会の闘いは、全国の多くの諸団体、人々とやってきた。福島は闘いが今日、このように闘いつづけて来たのは全国の人々の物心両面にわたる支援・共闘があったからだと思えます。それを忘れるあり方はおかしい、まちがっているということ、私たちは批判し、闘ってきました。

全国からのこうした動きに対する批判、要望を受け止め、またその後岸田首相が3月11日当日に

福島市に来るといふ状況もあって福島市での集会・デモの開催となりました。当日は全国から510名の参加があり、集会場からわずか500メートルの式典会場にいた岸田を、そして県庁デモで県知事・内堀も徹底弾劾しました。この日の闘いは、多くの福島市民の圧倒的注目となり大成功しました。この10年の3・11ではなかった大規模な警察機動隊、午前中から始まった右翼による激しい妨害状況など逆に国家権力が3・11闘争の爆発をいかに怖れていたかを示しています。甲状腺がんで苦しむ若者6人の勇気ある決起に応える闘いとして3・11闘争はやり切れたと言えます。

### 汚染水海洋放出は核武装 化攻撃そのものだ

来春に向けて政府・東電が全力をあげる表向きの理由は、「タンクがもう満杯」といつていますが、真の理由は核武装なのです。

青森県六ヶ所村の日本原燃再処理工場（核爆弾製造基地そのもの）が日本の核燃料サイクル政策の決定的中心である事は、御存知の方も多いいと思いますが、ここでも福

島と同様に海底トンネルを使って海に放出することを狙っています。その構造はほぼ同じで、むしろ先行していた六ヶ所の方を福島がまねをしたといえます。青森の方は、ここ何年にもわたってトラブル続きで、本格稼働のメドは立っていませんが、早期稼働を狙っています。来春福島での海洋放出強行をやつて、六ヶ所再処理工場も海洋放出・本格稼働を強行する、そんな狙いが見えます。高速増殖炉「もんじゅ」が破たんしても青森の核燃料サイクル基地建設には巨額の金を投入してしがみついているのは、原発再稼働と一体でこの核燃料サイクル政策の推進こそ核武装化攻撃の中心だからです。

福島での汚染水海洋放出を強行し、福島の反原発の闘いを圧殺する事、これは岸田政権にとって死活にかかったものです。

福島と同じく日本の労働者人民の闘いの拠点である沖縄では、日米帝の中国侵略戦争にむけた攻撃の強まりに対し、沖縄の労働者人民の闘いも激化しています。福島は、沖縄そして全国の闘う人々と共に来春の汚染水海洋放出阻止にむけさらに闘っていきます。

# 革命で戦争を終わらせよう！

アーニーヤ

ウクライナとロシアの戦争で核兵器使用が懸念されるなか、ロシアは核弾頭を搭載できる新型ICBMサルマトを今秋までに東シベリアへ配備する。バイデン政権はロシアをにらみつづ中国、台湾有事に重きを置き、日米の軍事一体化を進めている。その要が沖縄のミサイル基地化だ。戦争情勢を利用し、改憲・大軍拡・核武装へと突き進む岸田政権の打倒は急務だ。

イナの重工業産業の中心であるクラムトルスクでは、鉄道で避難するために民間人4000人が集まっていた駅がミサイル攻撃を受けて50人以上が殺された。

ゼレンスキーは米欧を先頭にした軍事援助で戦力を増強し、自国の戦争を世界戦争に転化しようとしている。殺されるのは労働者民衆だ。ロシア軍が制圧したと伝えているウクライナ南東部の港湾都市マリウポリでは、製鉄所にウクライナ兵と製鉄所の労働者、避難した市民ら数千人が立てこもっている。運営企業によれば、この製鉄所の施設は核戦争に備えた爆撃対策がなされ、電源供給と十分な水や食料の備蓄があるが、既に食料不足が懸念されている。ウクラ

これが戦争だ。戦場では軍人も自衛官も民間人も等しく命を奪われる。降り注ぐミサイルは威力の及ぶ範囲にある全てを爆撃する。殺すか殺されるかの極限状態で銃を構えていけば、動くもの全てを撃ちたくなる。戦争犯罪？人道や法律が正常に機能する戦場がどこにあるのか？そんな場所はどこにもない。だから、戦争はしてはならないのだ。戦争は始まる前に止めねばならない。しかし、世の中に戦争を必要とする勢力がある限り、戦争は起きる。その勢力こそ、資本家階級であり、戦争し続けることで維持される社会が資本主義社会だ。起きてしまった戦争を止めるには、戦争を必要とする資本主義社会をひっくり返すしかない。それを実現できる唯一の手段が革

命であることは、第一次大戦とロシア革命の関係を知れば明らかだ。

第一次世界大戦はドイツを中心とした同盟国側と、それに対抗する連合国側との戦いとなり戦争が長期化、軍事物資と兵力の消耗は想定を大きく上回った。そこで参戦国は国家権力を強化し、国民全階級を戦争動員し国家総動員体制で戦争を続けた。男は戦場へ送られ、子どもは飢えと病で倒れ、女は空腹のまま働かされ、とうとう

一次世界大戦は終結した。戦争終結の鍵は「戦争する自国政府を倒すこと」だ。その唯一の手段は革命だ。

は「パンをよこせ！」で始まった労働者階級によるデモが、男性よりも抑圧されてきた女性労働者の大規模なデモに発展した。数十万人の労働者が「パン！」、「戦争反対！」、「独裁政治反対！」と叫び、ゼネストに突入した。そこに反乱を起こした兵士が合流し、ロマノフ王朝は倒された。戦争する国家を労働者民衆の力で打倒したロシア革命によって、ロシアは戦争から離脱した。ドイツでも戦争に疲弊していた労働者のストライキが各地で起きていたが、ロシア革命の影響で無謀な出撃命令を拒否した水兵の反乱を機に労働者と兵士が蜂起してドイツ帝政は崩壊、第

5月下旬に「Quad」首脳会合にあわせてバイデンが初来日する。「Quad」は、日米豪印による「中国包囲網」だ。インドにとつて、ロシアは経済的にも軍事的にも重要なパートナーだが、そのインドと日本は「戦略的利益」を共有する「特別戦略的グローバル・パートナー」であり、岸田は総理就任後初の二国訪問先にインドを選んでいる。自国の対中・対露戦略にインドを組み入れたいアメリカにとつて日印関係は重要だ。また、「Quad」を補完する存在として日米韓の軍事協力があつた。韓国軍と自衛隊が戦争反対で団結すれば世界戦争を止める大きな力になるだろう。沖縄のミサイル基地化阻止とバイデン来日弾劾でみんなの怒りを集め、改憲と戦争を止める闘いに勝利しよう。

5・22バイデン訪日・「Quad」粉砕―5・15沖縄基地撤去闘争から11月国際連帯・労働者集会と万余のデモが現下の世界戦争情勢を革命に転化する労働者階級の力を引き出す。前進しましょう！

「池田裁判をともに闘う会」は、原告の池田頼将元3等空曹を支え、弁護団とともに自衛隊裁判を最後まで闘いぬいたことをここに報告するとともに、会としての活動は終了し解散いたします。

2022年4月18日 池田裁判をともに闘う会・代表 坂野康男

【1】イラク派兵で負傷した池田頼将元3等空曹は、事故とその後の医療不備、公務災害療養給付打ち切り、パワハラ・退職強要など自衛隊の安全配慮義務違反に対し、2012年9月、名古屋地裁に国家賠償を請求してきました。2018年11月26日、名古屋地裁（前田郁勝裁判長）は、「本件事故が原告の人生に著しい悪影響を及ぼしている」としながら、請求はすべて却下し国の責任を認めませんでした。

原告と弁護団は控訴し、自衛隊の元同僚の「証言」を陳述書として提出し証拠採用させました。しかし、名古屋高等裁判所（萩本修裁判長）は、自衛隊の違法行為を目撃した同僚の証人尋問を却下し取り調べをせずに審理を終結させ、2021年2月25日、池田頼将元3等空曹のすべての請求を棄却する判決を言い渡しました。2021年5月14日、この名古屋高等裁判所判決を取り消し、上告人池田頼将元3等空曹の国家賠償請求裁判の審理を再開することを求めて最高裁判所に上告し、受理されましたが、最高裁第二小法廷（草野耕一裁判長）は、2021年11月12日、上告を棄却する決定を下しました。

【2】自衛隊・国は、「復興支援が目的」「戦闘地域への派遣はしない」「石ころにつまずいても公務災害」として中東に隊員を送り出しながら、全てが嘘でした。池田頼将元3等空曹の裁判は、国が隠しておきたいこうした真実に触れ、隊員や家族の側に立って嘘をついた国の責任を追及してきた裁判です。

最高裁を含め裁判所は、使用者である国・自衛隊の責任を裁きませんでした。しかし、「国は約束を守らない」「自衛隊員を利用して使い捨てにする」ことを認めたということでは墓穴を掘った判決です。私たちはこの不当な判決を徹底弾劾すると共に、本年2月24日から始まったロシアのウクライナ侵攻、それに先立つアメリカとNATOによる戦争の拡大、岸田政権の改憲・戦争にむかう動きをうちやぶっていくために、国際連帯と労働者階級のもとへの兵士（軍服を着た労働者）の獲得に向けた闘いが広がっていくことを訴えます。

【3】国・自衛隊は、池田頼将元3等空曹が隊内から「国は平気で嘘をつく」「隊員は将棋の駒ではない」と人生をかけた闘いにたちあがったことに完全に追い詰められてきました。

池田頼将元3等空曹の訴える国賠裁判は、裁判所の判決で決着がつくものではありません。池田頼将元3等空曹に続いて、隊内から「国益のために」「平和のために」「国を守るために」という上官や国の命令への不安や不信がひろがっています。

米軍と自衛隊の一体化、沖縄ー日本全土で強行される基地強化・演習拡大など、いっそう侵略戦争国家へと国の在り方を変えようという動きに対して、改憲と戦争絶対阻止の闘いのなかで労働者と自衛隊・家族との団結を広げていくこと、ここに決着点があります。

【4】「池田裁判をともに闘う会」は、原告の池田頼将元3等空曹を支え弁護団とともに自衛隊裁判を最後まで闘いぬいたことをここに報告します。

最後に、会員の皆さんの財政的な援助や傍聴や署名などこれまでのご支援に深く感謝しつつ、「池田裁判をともに闘う会」としての活動を終了し解散のごあいさついたします。

# 池田自衛隊裁判

[連載 第6回]

作・ヤナギ イッセイ

「池田自衛隊裁判」の連載は今号をもちまして終了させていただきます。次号（Rise67号）別冊として完結編を発行する予定です。よろしくお願いいたします。（編集部）

## ⑮ 「症状固定」へ「診断書下書き」

さらに2010年12月20日、またも友枝一等空尉らが「症状固定」の圧力をかけに新潟救難隊を訪れたのです。しかも今回は「診断書の下書き」まで用意してきていました。

友枝空尉らは今度は池田さん同席のもと、制服姿で新潟大学医学総合病院の主治医と面談し、「診断書の下書き」を見せませす。医師に症状固定の診断書を要求したのですが、主治医は「症状は改善していないし、悪化しているのに、本当に治癒の診断書を書いていいんですか」と聞きました。池田さんは友枝空尉らの退席を求め、主治医に訴えますが、やむなく「症状固定」診断書作成に同意することになります。



症状は改善していないのに、本当に治癒の診断書を書いていいんですか？

この下書きの診断書を書いていただければいいんです

## ⑯ 公務災害療養給付が打ち切りに

翌日、友枝空尉らは池田さんを伴い新潟臨港病院を訪れます。主治医と面談。ここでも症状固定の「診断書の下書き」を見せませす。主治医は心配しました。「治療をつづければまだよくなるのに、症状固定の診断書を書いていいのかね」と。

池田さんは上官らの退席を求め、主治医に自分の気持ちを話します。「：職場から圧力が：幹部に囲まれて：乗り物が怖くて：絶対出勤してこいと：」と状況を説明。カルテ作成に政治的な圧力で治癒の診断をすることにやむなく同意した旨を記載してもらったことにはしたのです。

自衛隊側の異常な執念とも言えるこうした圧力で、10年12月に池田さんの公務災害療養給付は打ち切られました。



## ⑰ 業者と調整中「うるさい」トラブル

11年6月29日池田さんが通信班での勤務中、携帯電話で納品業者と調整していたときのことです。後輩の仲川から「うるさいから外でしゃべってください」と言われます。

職場では仕事上の電話をするとき、各々の携帯電話を使うことは日常のおこなわれていたことです。池田さんにはなんの問題もありませんでした。何よりも、上下関係が厳しい自衛隊ですから、後輩からこのようなことを言われたことには、池田さんの方が驚いたくらいです。

池田さんが「業者との調整中にうるさいとはなんだ」と返答したことから、トラブルとなります。（次号「完結編」へ）

